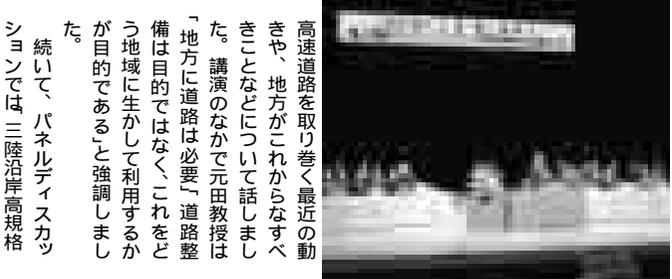


緑と潮風のリアス・ハイウェイ 早期実現 大船渡大会開催

7月19日、「のびゆく三陸 輝く未来へ」緑と潮風のリアス・ハイウェイ早期実現大船渡大会」が、J Aおおふなと会館大ホールで約700人が参加して開催されました。

これは、若手、宮城、青森の3県沿岸を三陸縦貫自動車道「三陸北縦貫道路」「八戸久慈自動車道」の三つのハイウェイで一本に結ぼうと、三陸沿岸都市会議（八戸市・久慈市・宮古市・釜石市・大船渡市・陸前高田市・気仙沼市で構成）が主催となり開催したものです。大会では、基調講演とパネルディスカッションなどが行われました。

基調講演では、旧建設省出身で現岩手県立大学総合政策学部教授の元田良孝氏が地方の道路整備の課題」と題し、



「地方に道路は必要、道路整備は目的ではなく、これをどう地域に生かして利用するかが目的である」と強調しました。

続いて、パネルディスカッションでは三陸沿岸高規格幹線道路とこれからの広域連携をテーマに行い、元田教授をコーディネーターに、甘竹勝郎大船渡市長、大平保男久慈市観光協会会長、實吉義正陸前高田地域振興（株）常務取締役、小山行子気仙沼市各種女性団体連絡協議会長の4人がパネラーとして語り合いました。

甘竹市長は、わたしたちの体には血液が流れ、大切な役割を果たしている。都市における血液は道路であり、豊かな地域づくり、防災対策として道路整備は欠かせない。高速道路で三陸沿岸をつなぎ、三陸漁場から首都圏へ新鮮な魚介類を届けるため、そして県内一の取扱量を誇る大船渡港を物流の拠点として活用していくため縦貫道は必要だと強くアピールしました。

道

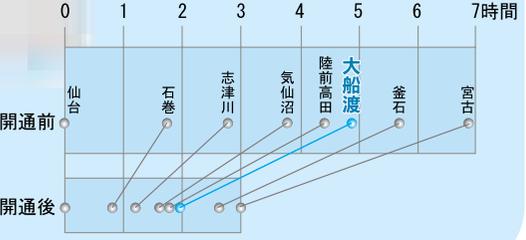
は、大切な役割
は、都市の血液

三陸縦貫自動車道が完成すると

三陸縦貫自動車道は三陸沿岸地域を短時間で結ぶ道路で、これにより新たな連携や交流による地域づくりの可能性が広がります。また、地域の防災ルートが確保されるなどの効果も期待できます。

大船渡～仙台間が

約2時間で結ばれます！



8月10日は「道の日」

「道」は、わたしたちにとってあまりに身近すぎて、その大切さを気にもとめない空気のようなものになりがちです。「道の日」とは、普段注目されない「道」にあらためて目を向ける一日です。

「道の日」は、大正9年8月10日にわが国で最初の近代道路整備の改良計画が実施されたことを記念して、昭和61年8月10日に制定されました（国民の休日ではありません）。これをきっかけに「道」について考えてみませんか？

7月19日は道 20日は海 総勢約1,500人が集い 大船渡の明日を考えた！

語り尽くせぬ

海と道

夢

「海」「道」は、わたしたちが生活するうえで、かけがえのないものになっていきます。

大船渡のまちの象徴、そして若手県を代表する水産としての海。人と地域を結んでいる道。このふたつがうまく結びつくことが、まちの活性化につながっていきます。

わたしたちがふだん、当たり前のように食べている海の幸、何気なく通っている道。そこには、わたしたちの生活に密着する身近な夢、希望があふれています。

7月19日にはリアス・ハイウェイ早期実現大船渡大会、翌20日海の日には第4回大船渡市水産振興大会が行われ、わたしたちの海と道における将来を考える機会となりました。

そして
このまちに

住んでみたい
わたしたち